



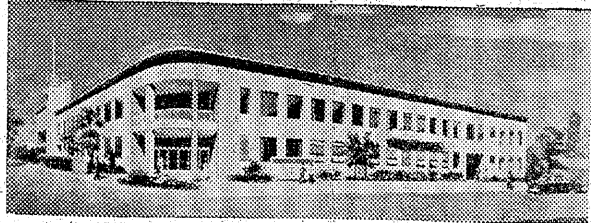
発行所 磐城日日新聞社 福島県小名浜町湊51 電話代表387番

社告 本社員と稱して各地に廣告を取り歩いている者ある向き... 昭和廿八年五月廿八日 磐城日日新聞社

發展大小名濱の象徴 市政殿堂への建築

苦心の設計圖遂に完成

小名浜市の象徴たる豪華華麗な市議会館の夢現は間近かに迫り現代建築の粋を集めた設計圖も完成した



小名浜町役場議舎の新築は町議員も数々の協議会に入り、六月半ばには入札、着工の運びとなる。規模で第一期工事完成は十月の見込みである。完成した設計圖によれば、視覚が作製された。その後加美山技師を中心として、現代建築の粋を集めて、鋭意設計に当たって来たが、二十八日その設計が専属設計の完了に伴いその附属仕様の製作を急ぐ事になった。

泉に常磐坑口を 町当局で誘致に大奮

町当局で誘致に大奮

泉町吉田助、小林副助、長、大津、吉田、阿部、佐藤各町議、事務委員ら一行は、現在全町泉字横山地区でボーリング開鑿中である。

近世印度の姿

②カルカッタ

インドは多数の貧民があつて、底の生活をしている。極く少数は豪華な生活をしている。中産階級がなく、貧富の差が極めて大きい。貧民は大部分文盲であるが、知識階級、支配階級は總じて、新開、菓子、本などの賣子が朝早くから街中を散在している。しかも皆裸で、彼等にとっては思想教育は義務制ではなく、約々英國流の文化生活

全人口三億六千万のうち、算婦は再婚してはならぬという風習が残っている。郊外は男ばかりで婦人の外出も戦後大分多くなつた。たゞ、まだまだ人の中に出て行かない習慣が相當に強い。かつてのマトマ・ガンジャー氏はインドの民主主義のために先づこの複雑な階級制度と封建制度を打破しなければならぬと主張していた。この主張は多分、一面の真実である。共産主義もなかなか盛んなようである。

照明の權威招き

廿日公民館で講習会

大都市は勿論中小都市まで一般に商店の営業力、夜間に移行しつゝある。商店街の店内照明、或いはショウウィンドウ、消費工場を五、六ヶ所、現在では約三分の一、一、二ヶ所が地方で消費されている。照明の權威を招き、廿日公民館で講習会を開く。

湯本一小の PTA 常任委員

平でサンマ

湯本一小PTA常任委員会は三十日午後一時から開き、事業運営の組織打合せなどを協議する。平でサンマの講習会も開く。

郡下小學校 校長會

小名浜町に 聖テモテ教會

本田美容室

魚菜市況

天気豫報

郡下小學校校長會は、来る六月二日午前十時より湯本一小に開き、各小學校の他を協議する。小名浜町に聖テモテ教會、本田美容室、魚菜市況、天気豫報の情報が掲載されている。

集の上公民館に開き、本会は町民や教職員に對する研究奨励費十萬圓(予算)の使用方針、運営の相談など原案を決議する。なごこのほど役員改選を行った結果、会長松本康一、副会長佐々木竹松、同矢内とよ子の諸氏が選任された。

湯本二中増築完成

平に讀賣へ リコブター

三月二十日着工した湯本二中四教室増築工事(二階建特別教室四)は三百五十万円を要し、二十五日完成した。同日午後三時から町當局並びに教委會で検収を行った。

平に讀賣へリコブター、湯本一小に開き、各小學校の他を協議する。

湯本一小PTA常任委員会は三十日午後一時から開き、事業運営の組織打合せなどを協議する。

郡下小學校校長會は、来る六月二日午前十時より湯本一小に開き、各小學校の他を協議する。

印刷の御用命は ナカセインサツ株式会社 小名浜町湊通り 電話二一九

新緑旅行シーズン 修学旅行にボストン手提鞆 旅行セット、ハンドバッグ、レインコート、綿ビニール、黒別珍婦人靴450円より、男女雨靴長靴洋傘、男婦人セーター、ガスマン、丸首メリヤス、女性着、化粧用品、ジュエリー、今評判の『ちどり』フロン

平マーケット 小名浜第二小學校前電話七

五月武者人形 特選 富豊陳列 小名浜町中島三海屋方 大丸屋人形店 製造販

照明改善講習會 開催のお知らせ 一、日時 五月三十日(午後一時より) 一、場所 小名浜公民館 一、講師 東芝照明研究所技師 伊藤孝氏 一、聴講無料 奮って御参加下さい 主催 小名浜公民館 小名浜商工会 後援 東北電力小名浜営業所

蛭田醫院 小名浜町上横町 電話 四九六番

植田中学の増築校舎

きのう落成式挙行

採光と防火に異色放つ

植田町中学校(校長園部一巳氏)の増築落成式は、二十八日午後一時より新築の校舎に渡邊町長、長瀬教育委員長等町内の名士約百余名が参席して挙行した。

先ず渡邊町長の式辭、建築施工者植田建設事務所、園部氏に感謝状と記念品を贈つて表彰、諸來賓の祝辭などがあつて盛大に終了した。

新築の増築校舎は、建坪一八六坪、工費三百五十六万円、昨年十一月十日起工式を行い、三月二十五日に竣工したもので、普通教室四、特別教室二、職員室、職員室などがあつた。防火壁、モルタル建築、その採光と設計は従来のものと異なり、現代的なものといふ校舎である。工事施工者植田氏が、超絶した特殊材を使つて、非常な犠牲的精神を持つて着工しただけに、其の出来栄は正に異彩を放つてゐる。

青葉の親善野球

水素幹部一中に惜敗

日本水素のお慶々部課長さんと、校長を先頭に一中の先生さま達が青葉の初夏を親善野球！

水素は小峰肥料課長を、一中は猪井数学氏をおのづからマウンドに送り、戦いは一中先攻で初まったが、何れも皆取つた件づか腕に自信の選手揃ひのゲームの進展は三百の観衆「まるでうまいじゃな」と感心して、と板、両陣互いに好投を競

ペンネームと

變つた名前集

ペンネームは原稿を書く時の筆名で、雅名とか雅号とかの類であります。古くは式亭三馬、十返花袋、それか蘇峰、雪舟、九などそれで、面白、楚人冠など、皆ペンネームである事は云々ま、いふ事なるが、植田山な、寔に先ずだの香海山人な、ともあつた。明治以後の

家畜の飼育

講習会(内郷)

内郷町役場勸業課では、十七日午前九時より公民館に於て家畜飼育の講習会を開き、ついで座談会を催し、有畜農、農家経済について家畜導入及び飼育など有意義な盛會を終えた。

湯本三小着

湯本の人口は年々歳々増加の一途をたどり、殊に児童が激増している折柄、現在の三小、二小だけで、は収容出来ず、これがた、第三小学を新設せよと町民の要請高まり、町当局をはじめ教委で、は以前より、建設費の確保に努めてきたが、このは、

二十一萬三千貫

小名浜四月の水揚高

小名浜港に水揚された全地区漁獲、底層関係の四月中の漁獲高は前月より五萬貫多くなり、二萬三千貫である。

これは底層船によるもの、あじ、さめなどの大漁が、直接の原因である。しか、出漁延滞と水揚漁獲を對照すると、隻平均が百二十貫弱と云う微々たる数字で依然として夏

社告

債紙が一斉に騰貴値上げを行つてから一年有半、本社はその間従来通りの六十円騰貴料に、近づく株式組織により飛躍的發展を見る運びとなり、新たに新聞活字並に高價製版機を購入し、面目一新の日を自動に控えておきます。編集陣、業務面の人員も擴充いたしまして一段と紙面の充實を計つて、就きましては、六月より騰貴料を八十円に致しました。従前通り宜敷く御協力をお願い致します。尚、この機会に今次株式組織發展へ積極的御協力、御盡力下さつた發起人四十数名の地方諸名士並に協力を申出られ、ある諸賢に深甚の謝意を表します。

昭和二十八年五月廿七日
磐城日日新聞社

小島の運動靴

三四四雙、三萬八千貫
四四七雙、一萬八千貫
四四七雙、一萬八千貫
四四七雙、一萬八千貫
四四七雙、一萬八千貫
四四七雙、一萬八千貫
四四七雙、一萬八千貫
四四七雙、一萬八千貫

上映中

記者 天三 記人 天三 章豪
美館

祝・植田中学校増築落成 5月28日

植田町役場 町長 渡邊 國之助 助役 吉田 信雄 収入役 古川 二郎	植田町議会 議長 鷲 文治 外議員 一同	植田町教育委員会 委員長 長瀬 武雄 副委員長 小野 塚量 委員 高木 一郎 教育長 成清 政子 好一	植田町立 植田中学校 校長 園部 一巳 PTA会長 森合 芳男 副会長 北郷 チヨノ 梅原 正	植田町立 植田小学校 校長 舟生 伊佐美 PTA会長 下山田 勇 副会長 小林 俊子 合津 定之	植田中学校増築 建築工事施行者 植田建築工務所 植田 清 福島縣石城郡植田町
植田地区金融團 株式会社東邦銀行植田支店 支店長 小林 保治 株式会社大東相互銀行植田支店 支店長 菅 野素明 植田信用金庫 理事長 赤津 庄兵衛 株式会社常陽銀行植田支店 支店長 鈴木 美代吉	鮫川堰土地改良区 理事長 古川 傳一 理事 高木 信定 飯塚 藤右衛門 大平 正次 高萩 政記 佐藤 権兵衛 小野 義一 監事 村上 重一 佐藤 丑太郎 議長 小浜 長太郎 副議長 高木 善枝 事務長 高木 保 外職 員 一同	磐城通運株式会社 植田支店 支店長 北郷 徳助 支店代理 坂 本喜 二十八日より三十一日まで 七番街の襲撃 まごころ 堂々二本立上映 菊田劇場 植田町 電話七七番			